

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立武雄小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (4 月)	全国 (4 月)	県 (4 月)	全国 (4 月)
	66.1	64.0	56.5	58.0
	(0.94)	(0.97)	(0.84)	(0.94)
R 6 正答率の全国比		0.95		0.91

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【現 6 年生】

- ・国語の正答率は全国比 0.95、算数の正答率は全国比 0.91 で、国算共に全国よりやや低い正答率であった。
- ・国語では、問題文の内容をとらえることや登場人物の心情の読み取り、言葉の使い方に関することで課題が見られた。
- ・算数では、無回答率が高く、特に「データの活用」に関する問題での無答が多かった。複数の条件に応じて答える問題や、表やグラフから必要な情報を読み取り、判断し、考えを記述することに課題が見られた。
- ・意識調査では、全体的に学習意欲が低く、生活の中で学んだことを生かそうとする意識も低かった。「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択あり)」の質問について、「家で勉強や読書をしている」を選択した児童は、全国 49.3%に対し本校は 39.2%であった。また、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている」を選択した児童は、全国 79.1%に対し本校は 90.2%であった。勉強や読書より、テレビや動画、ゲーム、SNS 利用に費やす時間が全国に比べ多いといえる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「めあて」と「まとめ」、「振り返り」を設定した基本的な学習の流れを大切に、児童にとって見通しのあるわかりやすい授業を積み重ねることで、児童が主体的に学習に取り組むような授業を実践する。
- ・条件を設定した作文を書いたり、自分の考えを表現したりする活動を授業や学校生活全般、家庭学習の課題で取り入れていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・学習用端末を効果的に活用したり、家庭学習の課題に工夫を加えたりして、基礎・基本の学力向上と学習意欲を高めるようにする。
- ・定期的に本の紹介をして読書意欲を高めたり、新聞記事などを読む機会を設定して文章を読むことに慣れさせたりする。

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立御船が丘小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (4 月)	全国 (4 月)	県 (4 月)	全国 (4 月)
	66.7	60	59.7	60
	(0.99)	(0.91)	(0.97)	(0.97)
R 6 正答率の全国比		0.89		0.95

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・全体の平均正答率は、県平均を下回っている。
- ・学習指導要領の内容別では、すべての内容において県平均を下回っている。特に、「読むこと」においては 6.6 ポイント下回っている。
- ・問題形式では、選択式において県平均を 6.6 ポイント下回っている。
- ・問題の無回答率は、選択式の問題において県平均より無回答率が高いが、短答式や記述式の問題においては、県平均よりも無回答率は低い。

【算数】

- ・全体の平均正答率は、県平均を下回っている。
- ・学習指導要領の領域別では、「データの活用」において県平均を 1.7 ポイント上回っているが、他の 3 領域では県平均を下回っている。
- ・問題形式では、記述式において県平均を 2.5 ポイント上回っている。
- ・無回答率は、ほとんどの問題において県平均を下回っているが、「直径 22 cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く」という短答式問題での無回答率が 4.5 ポイントと最も高い。

【意識調査】

- ・「5 年生までに受けた授業でのタブレット等の ICT 機器使用頻度」について、「週 3 回以上使用した」と答えた児童の割合は 55.6% で、県平均を 16.6% 上回っている。
- ・「月曜日から金曜日までの 1 日あたりの勉強時間」について、「30 分より少ない」と答えた児童の割合は 17.8% で、県平均を 3.1 ポイント上回っているが、令和 5 年度調査結果との比較では、3.9 ポイント改善している。
- ・「土曜日や日曜日の 1 日あたりの勉強時間」について、「1 時間より少ない」と答えた児童の割合は 45.6% で、県平均を 6.9 ポイント上回っており、令和 5 年度調査結果との比較でも 0.4 ポイント上回っている。

- ・「平日に3時間以上ゲームをしている」と答えた児童の割合が34.5%で、県よりも3.3%、全国よりも4.2%多かった。人数に表すと90人中31人が平日3時間以上ゲームをしているという結果であった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・学力向上対策評価シートの共通実践では、「教育の質の向上に向けた協働的な学びの充実とICTを利活用した授業づくり」を設定している。校内研究を活用しながら、学力向上に向けて全職員で授業改善に取り組む。
- ・自分の考えをもとに、児童同士が学び合う時間を設定し、主体的・対話的な学びを促す発問や働きかけの工夫やICTを利活用した授業づくりに努める。
- ・予習学習など目的を明確にした家庭学習の充実に取り組み、授業と家庭学習の一体化をより図ることで、児童の主体性を引き出す。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・家庭学習の時間が県や全国よりも短いことから、家庭での計画的な時間の使い方や、家庭学習の内容や取り組ませ方についても工夫する必要がある。
- ・ゲームや動画視聴時間についての見直しや、スマホ・タブレットなどのICT機器との付き合い方について、情報モラル教室や道徳など保護者と連携しながら取り組んでいく必要がある。

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立朝日小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	(4 月)	(4 月)	(4 月)	(4 月)
	64.5	63	61.0	61
	(0.96)	(0.95)	(0.99)	(0.98)
R 6 正答率の全国比		0.93		0.96

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語は、5 年時、6 年時ともに県平均をやや下回っている。算数は、5 年時、6 年時ともに県平均をわずかに下回っている。どちらも全国平均との差はさらに開いてしまうが、今後の伸びに期待したい。
- ・国語は、内容別では「情報の扱い方に関する事項」が 92.8%の正答率で、県や全国よりも高かった。問題形式では、選択式は良いが記述式の正答率が低く、書く活動を日ごろから取り入れる必要がある。
- ・算数は、領域では「図形」「データの活用」がよくできており、県平均を上回っている。問題形式では、国語と同じ傾向が見られ、選択式は良いが記述式の正答率が低く、ここでも「書く力」が必要である。
- ・児童質問紙によると、家庭での学習時間が少ないことが言える。平日 1 時間以上学習している児童は 25.3%であり、県の 47.4%と比較しても大幅に少ない。同じく休日では本校 30.9%、県 43.9%である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・算数は、時数の差はあるものの全学年に加配教員が入り、TT や少人数授業を実施しており、指導体制に恵まれている。授業支援はもちろんのこと、教材作成や採点、休み時間の個別支援等も分担する。
- ・夏季休業中に、職員研修として講師招聘のもと、県学状と全国学状の分析・考察をする機会を設けた。講師の的確な指摘と助言を受けて、これまでの指導を振り返り、今後の具体的な指導の指針をもてた。
- ・教職歴の浅い教員が多い本校であるが、校内研究、市教研、初任研等の機会を活用して積極的に研修に励んでいる。「見て見て授業」と称する若手教員の自主的な授業研究会も開かれ、指導方法をお互いに模索し合う頼もしい雰囲気がある。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・「名前札強化週間」や「筆箱チェック週間」の設定、朝の「立腰タイム」と授業前後の「立腰」など、基本的な生活習慣や学習習慣の定着の一助とし、落ち着いて生活や学習に臨む態度の育成を目指している。
- ・市の取組である「花まるタイム」を火・木・金曜日の朝の時間に位置づけ、担任、級外、地域支援員、保護者と校区をあげて取り組んでいる。児童の励みにもなり、15 分間を有効活用できている。
- ・全校で統一した指導ができるように各学級の電子黒板にパワーポイント資料を保存している。「立腰」「机の上スッキリ」「筆箱の中スッキリ」「算数ノートの約束」などを使って指導しやすくするように努めている。また、「算数ノートのやくそく」「クロームブックのルール」など紙資料もそろっている。

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立若木小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	(4 月)	(4 月)	(4 月)	(4 月)
	64.5	69.0	47.9	63.0
	(0.96)	(1.05)	(0.78)	(1.02)
R 6 正答率の全国比		1.02		0.99

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語、算数ともに県平均・全国平均と同等か上回る正答率であった。
- ・国語は、「思考力、判断力、表現力」の「書くこと」において、県平均・全国平均を大幅に上回った。特に、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く」設問において、県平均・全国平均ともに 30 ポイント以上上回った。しかし、「知識・技能」の漢字の使い方において課題が見られた。
- ・算数では、「思考・判断・表現」において、県平均・全国平均を上回ったが、「知識・技能」の「数と計算」における除法の計算で課題が見られた。
- ・意識調査では、「自分には、よいところがあると思う」と回答している割合は県や全国と比べて高く、自己肯定感が高い児童が多い。また、平日、休日ともに家庭学習の時間が 1 時間以上と回答している割合は県や全国と比べて顕著に低い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・国語においては、言葉や漢字の意味に着目した指導を行い、習得した漢字を使って文章を書く、使い方を考えさせる等の実践を行い、既習事項の定着を図る。
- ・算数においては、一つの問題をじっくり考えさせ、「なぜその考え方をしたのか」「相手の意見とどこがどう違うのか」を問い、解き方の意味を考えさせる等、自分の考えを深めたり広げたりする場を設定するようにする。
- ・1 人 1 台端末を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- ・個人差が見られることから、実態に応じた個別指導を行う等、指導の工夫を図っていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・毎月、「生活リズムチェック週間」を設定し、家庭と連携を取りながら、よりよい生活習慣、学習習慣の定着を図る。また、児童の実態に合わせた家庭学習の課題の提示、内容の工夫を行い、ICT 機器の活用を含めた家庭学習の充実に努める。

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立武内小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	R5（5年時）	R6（6年時）	R5（5年時）	R6（6年時）
	県（4月）	全国（4月）	県（4月）	全国（4月）
平均正答率	65.4	71.0	60.3	61.0
R6 県比	0.97	1.08	0.98	0.98
R6 全国比		1.04		0.97

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の結果。

◎ 「R6 県比」は県平均正答率を1としての比較。

◎ 「R6 全国比」は全国平均正答率を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

- ・資料を読み取ることや資料からわかることを説明することに課題が見られる。読解力の育成が必要。
- ・前の学年の学習内容の理解が不十分なので、既習事項の定着を図る必要がある。

【意識調査】

- ・「授業でわかったことをまとめる活動を行っている」と回答した児童が8割を超えるが、「わかったことを発表できている」と回答した児童は5割。学習に自信を持っていない実態がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・どの教科においても、ふりかえりの時間を設け、授業で学んだことや友達の良い考え、さらに学習したいことなどをまとめさせることで、学習の定着を図る。
- ・算数では、学習の理解度に合わせて学習内容や分量を選択させて学習に取り組ませ、既習事項の定着を図る。
- ・「算数道場」と題して学年ごとに集中して取り組む時間を設定し、管理職・級外など複数の教員で指導に当たる。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の時間（10分）を「読書タイム」と設定し、全校で読書をする時間を設ける。
- ・読書を推奨し、読書をする習慣を身に付けせる。
- ・自主学習に取り組み、家庭学習の充実を図る。
- ・低学年のときから、話し言葉において、主語と述語を意識させる。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	(4 月)	(4 月)	(4 月)	(4 月)
	60.7	63.0	50.0	55.0
	(0.92)	(0.95)	(0.85)	(0.89)
R 6 正答率の全国比		0.93		0.86

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○国語・算数ともに県や全国の平均正答率を下回っているものの、前年度からの推移をみると、国語・算数ともに平均正答率が上昇している。

○国語の平均正答率は、県・全国平均より下回っており、正答率分布は二極化の傾向があった。主語・述語の関係、読書記録の問題において正答率が低く、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について課題が見られた。基礎的な知識・技能について再確認する必要がある。

○算数の平均正答率は、県・全国平均より下回っており、正答率分布は全体的に分散傾向にあった。体積については公式を活用して求積ができていないものの、「数と計算」領域の正答率が非常に低く、題意を読み取り、正確に立式することができていなかった。また、割合のグラフの読み取りなど「データの活用」の領域や複数の資料を関連付けて読み取る力について課題が見られた。

○基本的な生活習慣が整っており、学校生活に満足している児童が多く、学ぶ土台ができています。

○「人が困っているときは進んで助けている」「学習・生活場面で友達や周りの人の考えを大切にして協力しながら課題解決に取り組んでいる」と回答している児童は県や全国平均よりかなり上回っており、協働しながら活動していくことの大切さを意識している児童が多いと考えられる。

○授業態度や調査結果において最後まであきらめずに問題を解こうと努力していることが分かった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

○キーワードに書き込みをしたり、図・表などで思考を整理したりして考えを視覚化する。

○主語・述語の意識化、読書記録の継続化を図り、適切な言葉の使い方・語彙力を向上させる。

○授業の中で複数の資料を使用した課題を設定し、資料を関連させて読み取る力を身に付けさせる。

○学び合いの仕方を価値付け、考えを広げたり深めたりする力を身に付けさせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

○週 1 回の「全校スピーチ」で話す・聞く力の向上を図るとともにメモの取り方の指導を強化する。

○家庭学習強化週間を年 2 回（6 月、11 月）設定し、家庭学習の定着を図るとともに家庭の教育力向上を目指す。自主学習を奨励し、その目的や内容を明確にして自分の力を伸ばす学習に取り組ませる。

○家庭学習においても、書き込みをしながら問題に取り組むことを指導し、線をつないだり図に表したりして自分の考えを整理する習慣を付けさせる。

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立東川登小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (4 月)	全国 (4 月)	県 (4 月)	全国 (4 月)
	61.5	57	56.4	59
	(0.91)	(0.86)	(0.92)	(0.95)
R 6 正答率の全国比		0.84		0.93

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語は、後半の問題について正答率が下がるし、無回答も多い。多数の資料の中から必要な情報や意図を読み取ることができていない。漢字や言葉の問題も弱い。
- ・「図形・速さ、道のり・表やグラフの読み取り」・「考えを式や言葉で説明する。」が弱い。
- ・「月から金曜日までに 1 日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか。」の問いで 2 時間以上が 37.6%いて、「月から金曜日までに 1 日当たりどれくらいの時間 SNS など動画視聴をしていますか。」の問いでも 2 時間以上が、43.8%いることから、家庭での学習の習慣化がなされていないように考える。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・家庭学習に日記指導として条件作文の練習を取り入れる。
- ・物語文の音読を通して、主人公の気持ちに共感したり、想像したりできるようにする。
- ・ペア学習やグループ学習の折に、他己紹介をさせることで、聞く態度の育成と、聞いたことを自分の言葉として話す学習につなげる。
- ・週末課題や 1 日 1 問解く取り組みを継続して、公式や問題の解き方のコツを習得させる。
- ・問題文をよく読み、「問われていること」「大事な数字」などに線を引き、正しく式を立てたり、解答したりする力をつけさせる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・マイアセスやタブレットドリルを家庭学習などに用いてフォローアップにつなげる。

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立橋小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (4 月)	全国 (4 月)	県 (4 月)	全国 (4 月)
	70.2	68	63.9	63
	(1.04)	(1.03)	(1.04)	(1.02)
R 6 正答率の全国比		1.00		0.99

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語、算数ともに全国平均・県平均とほぼ同等である。
- 国語、算数の内容・観点・問題形式については、全国平均とほぼ同様な傾向もしくは、やや高い傾向である。
- 早寝・早起き・朝ごはんの基本的な生活習慣はできていると答えている児童が多い。
- 長時間の動画視聴をしている児童が多く、自己肯定感の割合が低くなっている。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 文章問題を読み、問題をイメージすることが難しい場合は、問題文に出てくる数字を簡単にして提示し、どんな式になるか考えさせる。
- 立式をして、答えを導くだけで満足するのではなく、考え方を友達に説明する時間を作る。難しいと感じている児童は、説明してもらうことでヒントをもらい、答えを導くことができた児童は説明しながら自分の考えを再び整理する時間にする。
- 現在、算数の考え方に大きな課題がある。特に分数のかけ算・わり算において、分数で表された割合を使った計算が理解できていないので、授業やパワーアップタイムで復習していく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・長時間の動画視聴をしている児童には、成績との相関関係を知らせ、自分の生活習慣を考えさせる。
- ・家庭学習の時間を計画的に確保できるよう支援を行う。
- ・体験活動を中心とした郷土について学ぶ体験活動を充実し、出番を与え賞賛の機会を作り、自己肯定感を高める。

令和6年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて
武雄市立山内東小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	(4 月)	(4 月)	(4 月)	(4 月)
	72.6	76.0	71.7	72.0
	(1.08)	(1.15)	(1.16)	(1.16)
R 6 正答率の全国比		1.12		1.13

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査の結果から】

- ・ 国語科、算数科ともに、正答率は県や全国平均を上回った。

【国語科】

- ・ 観点別にみると、「知識・理解」「思考・判断・表現」のどちらも、正答率は全国を上回った。また、「話す・聞く」「読む」「書く」の領域全般においても、正答率が県や全国を上回った。
- ・ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題での正答率が県や全国を下回った。条件を満たして書くことができなかった点で課題が見られた。

【算数科】

- ・ 観点別、領域別ともに、正答率が県や全国を上回った。
- ・ 「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうか」をみる問題では、正答率が県や全国を上回っているが、38.1%で低い正答率であった。
- ・ 「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうか」をみる問題においては、正答率が県や全国を下回った。データの活用を踏まえていても、式化する点で誤答がみられた。

【質問調査の結果から】

- ・ 「自分には、よいところがありますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはありますか」の項目で、ほぼ 90%の児童が、肯定的に回答していることから、児童の自己有用感や幸福感が、落ち着いた学習につながっている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」や「友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の項目に肯定的に回答している児童

が95%を占めている。これらのことから、主体的・対話的で深い学びに取り組んだり、協働的に学び合ったりすることができていると考えられる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【書く活動の充実と協働的な学習の充実】

- ・ 「授業づくりのステップ1・2・3 vol.1 & 2」をふまえ、授業の中で、自分の考えを書いたり、説明したりする活動を仕組み、児童の考えを相互に交流させる。
- ・ どの教科においても、書く活動の場を積極的に取り入れていく。日記や作文指導においては、苦手意識をもつ児童を考慮して、モデル文を提示したり、興味をもつテーマ作文に取り組んだりしながら、「書き慣れる」力を育てていく。
- ・ 自分の考えを書いた内容を発表や友達との交流に生かしたり、グループや全体場で話し合ったり練り合ったりすることを通して、自分の考えを深めたり、友達と伝え合ったりする楽しさを育んでいく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・ 学校行事、集会行事や校外学習等において、感想交流の場を設け、児童が自分の考えを伝える機会を増やすことで自信につなげていく。
- ・ 「山東っ子の学習習慣」に継続して取り組むことで、学習の土台づくりへとつなげる。
- ・ 学習習慣調査を行い、家庭での学習時間を見直したり、共通理解をしたりすることで家庭との連携を図っていく。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	(4 月)	(4 月)	(4 月)	(4 月)
	66.4	66.0	64.7	63.0
	(0.99)	(1.00)	(1.05)	(1.02)
R 6 正答率の全国比		0.97		0.99

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・ 問題形式ごとに見ると、短答式や記述式問題の正答率は、県や全国平均より高い。
- ・ 内容別に見ると、「書くこと」の正答率は、県や全国平均を上回るが、「読むこと」は、県や全国平均よりやや下回る。資料から条件に合う情報を読み取ることに課題がある。

【算数】

- ・ 問題形式ごとに見ると、選択式や記述式問題の正答率は、県や全国平均より高い。
- ・ 領域別にみると、「数と計算」で、県及び全国平均を上回り、「図形」「変化と関係」「データの活用」で、県及び全国平均を下回っている。「図形」や「データの活用」領域の問題の無回答率が高い。その要因として、図形の見方が限定的で頭の中でイメージができていない
図形の回転・変形ができない
資料か条件に合う情報を読み取ることができない
などが考えられる。

【意識調査】

- ・ 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」と肯定的に回答した児童の割合は、95%をこえ、県や全国平均を上回っている。
- ・ 「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童は、9 割近くおり、県や全国平均を上回っている。
- ・ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と肯定的に回答した児童が 7 割おり、県や全国平均を上回っている。
- ・ 「新聞を毎日読んでいる」児童は 0 人で、9 割弱の児童が「ほとんどまたは全く読まない」と回答している。
- ・ 国語の解答を文章で書く問題では 8 割以上、算数の言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題については 7 割程度の児童が「すべての書く問題で最後まで回答を書こうと努力した」と回答している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・ 「授業づくりステップ1 2 3」のステップ3を目指した授業づくりをし、定期的にチェックシートで振り返りをすることを継続し、授業改善について意識の継続を図る。
- ・ 週末の宿題などで文章問題に取り組ませたり、授業内容と関連した読書活動の充実を図ったりすることを継続することで、「読むこと」への興味・関心が向上するようにしていく。
- ・ 日頃の授業の中で、キーワードや文字数などの条件を与えて自分の考えを書く機会を意識して設けることで、条件に合った文章を書くことができるようにしていく。
- ・ 問われていることやキーワード、大事なところに着目できるように、問題に書き込ませる指導を行い、問いに正しく答える力が付くようにしていく。
- ・ 国語の学習と関連した読書活動にさらに力を入れていく。
- ・ 算数の問題については、間違いのやり直しの時間を十分確保し、基礎的な内容の確認をするとともに、内容の理解を定着させていく。
- ・ 必要に応じて可能な限り、TT授業や少人数指導ができるような支援体制を整える。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・【学びの土台づくり】

児童の発達段階に合わせた「西っこカード」を全学年で活用し、基本的生活習慣づくりに取り組んでいる。その中の「生活習慣」に関する項目は、児童一人一人の実態に合わせて変更し、生活習慣の見直しを図っていく。また、学習において大切な「読むこと・書くこと」の力を付けるために「音読」や「日記」の宿題に毎日取り組ませる。「西っこカード」は、毎日保護者に点検してもらうようにし、家庭との連携を図る。家庭学習で自主学習を奨励し、児童の学ぶ意欲の向上や既習内容の習得を目指す。

【教員相互の学び合いの充実】

TT授業や少人数授業を行うことで、教員同士が指導法や教材研究について学び合ったり、授業を参観して学んだことを共有したりすることで、指導力向上を図っていく。

タブレットの活用法も含め、校内研修の時間をはじめ、学年あるいは学年グループで情報交換をしながら、効果的な活用方法を追求していく。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (4 月)	全国 (4 月)	県 (4 月)	全国 (4 月)
	62.1	57	52.2	56
	(0.92)	(0.86)	(0.85)	(0.90)
R 6 正答率の全国比		0.84		0.88

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○国語、算数共に全国平均、県平均を下回っている。

【国語】

- ・漢字の設問は全国及び県平均以上であるが、他の設問は平均を下回っている。
- ・「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる」という趣旨の設問に対する正答率が特に低い。
- ・「書く」ことの正答率は全国及び県平均より 6%程低く、無回答率も多い。

【算数】

- ・「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるか」という趣旨の設問や、「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるか」という趣旨の設問に対する正答率が特に低い。
- ・全国及び県の正答率が低い設問については、本校の正答率も低く、大きな差はない。

【意識調査】

- ・「学校に行くのは楽しい」と回答した児童は、全国及び県平均より高い。
- ・ICT 機器を活用することについての意識は、全国及び県平均よりかなり高い。
- ・家庭学習を 1 時間以上行っている児童の割合は、全国及び県平均よりも低い。
- ・「1 日当たり、どれくらい携帯電話やスマートフォンでの SNS や動画視聴などをしますか」の設問では、1 時間以上と回答した児童が約 60%で、その内 2 時間以上 3 時間より少ないと回答した児童の割合が一番多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・「授業づくりのステップ」を基本とした授業づくりに努める。「めあて」から「まとめる」という流れをしっかりと作る。
- ・「書く」活動を重視する。国語科では、条件に合わせて文章を書かせたり、教材のあらすじや感想を書かせたりする活動を取り入れていく。算数科では、メモをしたり、図を描かせたりする活動を多く取り入れていく。「書く」ことの習慣化を図り、「交流する」活動へとつなげていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・児童と向き合う時間を確保するため、課後の時間を長くとることができるように校時の見直しを図る。
- ・家庭学習の定着、家庭でのタブレットやスマートフォンの利用についての啓発を図るために、情報モラル教室を開催したり、啓発のための情報発信を行ったりする機会を増やしていく。